

# 城陽市障がい者自立支援協議会

## 第9回 聴覚言語障がい支援部会報告書

報告者 部会長 聴覚障害者生活支援センター は一もにい 山崎 伸治  
標記について下記のとおり報告します。

日 時	平成 24 (2012) 年 8 月 17 日 午前 10 時～12 時
場 所	福祉センター 第 2 会議室
出 席 者	城陽市福祉課 相談支援事業所・は一もにい 手話通訳者の会・要約筆記奉仕委員会・手話サークル・要約筆記サークル 城陽ろうあ協会・城陽市難聴者協会
検討課題	『親子手話教室』について 『支援マップ』の作成に向けて

### 【議事録】

#### 1. 『親子手話教室』(7/25・8/1・8/8) について

- ・長期休暇を利用した親子体験教室。
- ・8組 17 人（親 8 人子ども 9 人）を、就学前と小学生の 2 つのグループに分け、表現の練習、手話の学習、手話歌の練習など。子どもたちはゲーム、親は手話劇の練習なども行った。
- ・手話の指導は、部会に参加している委員を中心に委員以外の当事者にも参加してもらった。
- ・最終日はグループに分かれて手話歌『さんぽ』、『小さな世界』の発表。また親による手話劇『桃太郎(寸劇)』を行った。

#### 《参加した親子の感想》

子) ・いろいろ教えてもらえてうれしかった。

- ・いっぱい覚えて（手話で）会話したい。
- ・自分の名前の手話を覚えられてよかった。
- ・手話の歌が少し難しかった。
- ・ジェスチャーゲームやクイズが楽しかった。

親) ・子どもの手話教室や手話サークルを作ってほしい

- ・子どもの笑顔がたくさん見られてよかった。
- ・子どものうちに手話に関われる環境を作ってほしい。
- ・城陽市の子どもがみんな手話のできる社会ができるよう願っている。
- ・手話歌や劇など短時間で体験できたことが楽しかった。
- ・手話を通していろんな方とふれあうことができて良かった

## 《委員の感想》

- ・子どもは手話を覚えるのが早かった。この中から将来通訳者を目指す人が出てくれば嬉しい。
- ・親子で楽しく手話をしていたのが印象深い。
- ・サークルの会員・元会員が参加してくれた。サークルで取り組んできたことに意味があった。
- ・親子に指導するのは初めてで難しかった。
- ・手話劇は教えたわけでもないのに自然と身ぶりなどで表現されてとても良かった。
- ・難聴児の参加が無かったのが残念だった。今後は難聴児や難聴に関わる取組になれば良い。
- ・今年度は専門部会主催で開催したが、今後は市の事業として開催できるよう協議していきたい。

## 2. 『支援マップ』の作成に向けて

○手話・要約筆記サポーターの登録制度について、城陽市在住の手話通訳者や要約筆記奉仕員の数が限定されているため、養成講座を修了した人にも呼びかけ、災害時のコミュニケーション支援に協力してほしいと考えている。対象者の整理や意思確認が必要でありどう進めるか？

- ・サークル員にいきなりサポーター登録を呼びかけても「手話が十分できないから」と躊躇する方もおられる。災害に関する手話学習など研修の機会を設けてほしい。
- ・登録の呼びかけ範囲は、養成講座を修了した人で、なおかつ現在もサークル等で活動している人、または、今年度以後の養成講座修了者に絞ったらよいのではないか。

○「支援マップ」は地震想定で進めてきたが、今回の山城地域の豪雨災害(8/14)から、改めて災害時にどんな支援が必要か？

- ・今回のように短時間で被害が急速に広がった場合、行政でも被害状況を正確につかむのが困難であり課題。
- ・避難するよりも自宅にとどまる方が安全な場合もある。その判断材料となる情報をきちんと伝える必要がある。場合によってはエリアを限定した情報（発信）が効果的なことも予想される。
- ・災害時に支援が必要な家は旗を掲げて外部に救助要請するような方法はどうか。
- ・以前自立支援協議会とは別の会議でコミセンが避難場所と言われ、水害時のことも検討して欲しいと要望した。その後具体的な動きは無く今回東部コミセンは浸水した。市はきちんと検討して欲しい。
- ・災害時、市からの聴障者への安否確認は基本 FAX 送信、停電になれば使えない。
- ・安否確認の対象者は手話通訳や要約筆記のコミュニケーション支援に関わりのある方、当事者団体に加入している方、災害時要配慮者台帳に登録している方など。他はわからない。
- ・安否確認は災害時だけでなく日常的な確認も大切。社協による安否確認の補助金制度が始まった。以前は自治会のみを対象だったが障がい者団体、ボランティア団体も登録できるようになった。手話サークルはサークルの新聞を聴障者宅へ届ける取り組みで安否確認をしており、要約筆記サークルはサロン活動で安否確認しているので申請した。身近な当事者団体と支援者団体でふだんから安否確認を始めてみる必要がある。

\*今回、災害時支援についていろんな意見が出されたが、専門部会の中だけで考えるのではなく、委員が所属する各団体で同様に協議してもらおうよう依頼した。

